

後夜ごやぶつぼうそうちよう仏法僧鳥きを聞くき（空海くわうかい）

閑林かんりん 独坐どくざす 草堂そうどうの 曉あかつき

三宝さんぼうの 声こゑ 一鳥いちちように 聞きく

一鳥いちちよう 声こゑ 有あり 人ひと 心こころ 有あり

声心せいしん 雲水うんすい 俱ともに 了りようりよう了了

閑林濁坐草堂曉 三寶之聲聞一鳥  
一鳥有聲人有心 聲心雲水俱了了

解説 この詩が作られたのは、草堂で夜明けに仏法僧の声を聞き、  
仏道の妙理を悟ったことをよんだ詩。

語釈 ※後夜Ⅱ夜の十二時頃から、翌日の午前五時ごろが後夜である。  
※仏法僧鳥Ⅱ小形のみみずく。※閑林Ⅱ閑寂な林。※草堂Ⅱ高野山に構えた住房の竜光院であろう。※聞一鳥Ⅱ鳴く鳥は一羽でありながら三宝を呼ぶとの、その機の玄妙をいったもの。※声心Ⅱ声は鳥声、心は人心。※雲水俱Ⅱ雲と川の流れ。※了了Ⅱはっきりとした様。

通釈 高野山中のひっそりと静まる草堂の夜明け、ひとり坐して無我寂静の境地にはいつていると、どこからともなく、仏法僧と鳴くみみずくの声が聞こえる。鳥は何の考えもなく、ただ仏法僧と呼ぶのであるが、いま三宝の名をこの一鳥の声のうちに聞いて、思わず心に感じ悟るものがあつた。鳥声と人心とが、さらに山中の雲と水流とまったく一つに融け合い、ここに仏道の真理がはっきりと看取されたのである。